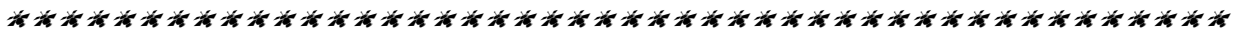




# とつか

## 2022年7月会報 第333号

- 国際会長(IP) Samuel Chacko (Indea)
- 2022 主 題 “Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT”  
 「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」  
 スローガン“BEYOND SELF and BE THE CHANGE” 「自己を超えて、変化を起こそう」  
 アジア太平洋地域会長(AP) Chen Ming Chen (Taiwan)
- 主 題 “Elegantly Change with New Era” 「新しい時代とともに、エレガントに変化を」  
 スローガン“Doing It Right Now” 「今すぐ実行を」  
 東日本区理事(RD) 佐藤重良 (甲府21)
- 2023 主 題 “Let's act now for the future” 「未来に向けて今すぐ行動しよう」  
 スローガン“Do something for someone and have an enjoyable club life for yourself!”  
 「誰かのために奉仕して 自分のための楽しいクラブライフを！」  
 湘南・沖縄部部長(DG) 小松仲史 (厚木)
- 主 題 主 題 「楽しく・元気よく・前向きに」・副 題: 入りたくなるワイズにしよう  
 クラブ会長 吉原 訓 会長主題「原点回帰」  
 副会長 若木一美・書記 加藤利榮・会計・岡 進・メネット 吉原和子・担当主事 瀬戸敏孝



### 《会長ひと言》 原点回帰〈本年度モットー〉 吉原 訓



久しぶりに会長をお引受けすることになりました。この2~3年、対面での会合はほとんど開けず、メンバーとの電話での会話は、「お元気？毎日何しているの？」です。コロナウィルスは世界中を混乱させてきました。この騒ぎはいつまで続くのでしょうか…？

湘南とつかYMCAの諸活動も苦労の連続であったと推察されます。飲食業や旅行関係業だけでなく、世の中全体に悪影響が及んでいます。生活に直結しないYMCAの活動部門にとっては特に厳しい期間であったと思います。スタッフの方々のご苦勞とご努力に心から敬意を表したいと存じます。

私たちのクラブも高齢化が進んでおります。会員増強は進んでおりません。厳しい状況での新年度スタートとなっています。

私たちは何をすべきか、何ができるか…、もういちど原点に戻ってワイズメンズクラブを見つめ直してみたいと思います。いつまでもコロナウィルスの悪影響を受け続けるわけにはまいりません。

今後は、インフルエンザウィルスの再登板だという報道もあります。上手にウィルスをかかわしながら大切なこの一年を、そしてまた一年をワイズメンズクラブの活動とともに生きていきたいものだと思います。

### ◎今月の聖句◎

神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということをわたしたちは知っています。

—ローマの信徒への手紙5章28節—

主は、この弱きわたしたちに慰めと勇気と希望を与えてくださっています。この愛の御言葉、まさに今、ワイズ年度が新しくなり、スタートに相応しい御言葉です。‘共に働く’は、ワイズ活動の源ですね。

### 強調月間 キックオフ ほか

ワイズの年度初め、コロナ禍で過ごした前年度に比べ、今期こそは…という期待感も去来します。また、今期は、いよいよワイズ設立百周年の年、そして、次年度はクラブ設立30周年を迎えます。

それやこれやで、今期は、会長モットーにもあるように、各人が、一つ原点に立ち返って、ご自分の奉仕活動を顧みながら、この意義深いときを過ごしたいものです…。

会員数	6月の会合		出席率	ファン	B	F	B	F	CS・TOF・A S F (円)	B A P Y (円)	ロ	バ
	メ	ン		他	(円)		(g)					(円)
メ	11	メ	10									
ネット	8	ネット	1	前		0		0		0		0
		ゲスト	1	当		0		0		0		0
計	19	合	12	累		0		0		0		0

★強い義務感を持つと 義務はすべての権利に伴う★



6月21日(火) 18:00~19:30・  
 とつかYMCA・404号室・出席者は、  
 吉原 訓・吉原和子・浦出昭吉・  
 岡 進・鈴木ひろ子・若木一美・  
 瀬戸担当主事の各氏 ー以上7名ー

「遊山箱」が3年ぶりに開催・設置されるとの報告がありました。

協議では、7月2日(土)、予算・決算を除く総会例会を開催し、ユニリーフの大下利榮子様による報告と献金贈呈、部長の公式訪問を予定しています。

また、協議では、来期は例会開始時刻を18時、第2例会は、原則「取り止め」、必要に応じて開催することが決定されました。

役員人事面では、会長は吉原 訓さんに替わる以外は、すべて現状のまま留任すること、および、会費も〜決算内容にもよるが〜同額を維持することを確認した。

YMCAからは、チャリティーランを対面方式で10月15日(土)、eとつか祭を11月3日(祝・木)開催の方向で検討中であること、また、7月2日(土)には商店会恒例の遊山箱が3年ぶりに設置・開催されることの報告がありました。  
 (前出)

今期最後の例会が、対面方式で開催されました。  
 会長報告では、①5月21日(土)に湘南とつかYMCAとの交流会が開催され、リーダー会のメンバーとのゆるやかな連携が図られた。②5月28日には、部主催の研修会が舞岡地区センターで開催され、田口努同盟総主事から、法人化の“ねらい”を熟慮する必要がある旨の講演をいただいた。③6月3日は区代議員会が開かれ、事業、予算・決算の見通しほか可決され、④ 4・5日は区大会がオンラインのみで開催され、それなりの成果を収めることができた。⑤ 7日(火)はとつかクラブの担当で、Y-Y's協議会が開かれ、今年度のチャリティーランやエイズフォーラムなどの事業確認等が行われました。また、YMCAからの報告では、10月15日(土)はオンライン・対面併用によるチャリティーラン、11月3日(木・祝)には「eとつか祭」を対面開催の方向で検討中とのこと、また7月2日(土)には、戸塚東口商店会恒例の

この2年間、クラブの皆様には大変お世話になりました。特に、あとの1年は、湘南・沖縄部の部長も兼ねましたので様々ご迷惑が掛かったかと思えます。

皆様からのご協力を心より感謝申し上げます。 若木

☆第94回YMCA-Y's協議会から☆

若木一美

6月7日(火)、第94回目の表記の会合が当クラブの担当で関内中央YMCAにおいて、YMCAから佐竹総主事ら3名、ワイズから若木部長ら3名、オンラインには12名の参加で開催されました。瀬戸俊孝とつかクラブ担当主事による開会礼拝の後、佐竹総主事と若木部長から挨拶があり、担当とつかクラブ若木会長の進行により協議に入りました。

初めに、6月4日に開催された東日本区大会担当主事会報告が阿部正伴部担当主事からその概要が報告され、また第25回チャリティーランは担当職員の瀬戸さんから、臨港パークでの参加者とオンラインでの参加による併用方式で開催する旨説明があり、具体的。詳細については、後刻決定次第通知したい旨の説明がありました。また、29回目を迎えるAIDS文化フォーラムは8月5日~7日・かながわ県民センターとオンラインで開催することになり、その準備に入った旨報告がありました。

ウクライナ関係では、先だって拠出方依頼した難民の子たちへの図画用具拠出のお礼が、担当の石川ナオミ職員から述べられ、現在、76名のウクライナの方々横浜市内に避難されているが、今後とも様々な支援活動をお願いしたい旨の報告がありました。

次回は、9月6日(火)・金沢八景クラブの担当を確認し20時閉会しました。

~Y-Y's協議会小史~

当初(1989年ころ)、吉村総主事当時、「会長連絡会」と称しYMCAとクラブ、双方の情報交換が目的だった。

その後、山根総主事に至り、年4回、名称も現在のものに…。

☆2022年度横浜YMCA 会員総会から☆

若木一美

5月28日(土)14時から山手・聖光学院において、オンライン併用による表記の会合が開かれ、参加しました。コロナの関係で、採決は昨年同様にその場でなく、6月4日までに書面で意思表示をする、その数によって決定ということであった。

初めに、総会準備委員長の今城孝之さん(横浜つづき)による開会礼拝、続いて岡戸良子総会準備委員長の挨拶があって、鈴木茂常議員会議長の司会で、総会の成立、賛否の取り方につき、説明があった。

総会は、まず初めに佐竹総主事から、「2021年度事業及び会計報告の承認」と「2022年度全体事業方針・計画案及び予算案の承認」の提案・説明があった。コロナ禍の下、事業の縮小、留学生が来日できない等、厳しい事業運営の下で、21年度横浜YMCA創立150年(2,034年)に向けての長期計画「VISION2034」の策定や持続可能な組織となるための第1期中期3か年計画の初年度としたこと及び会員諸氏の維持会費の増額等の支援、励ましのお陰で、財政的には横浜YMCA全体で、黒字決算に終えることができたことへの感謝が述べられた。

終わりに、工藤理事長のあいさつがあって閉会式に…。佐竹総主事のコトバで終了・解散した。

日ごろ、なかなかお会いすることのできない方々ともお話しすることのもできたひと時でした。

## ☆アナザースカイ…ワイズの喜び☆



東日本区事務所長 小林 隆(沼津)

私は沼津クラブの小林隆と申します。加藤ワイズからブリテンへの寄稿依頼を頂き、快諾いたしました。私は上司の一言で2002年に沼津クラブに入会、2006年に会長もやりました。加藤さんとの関りは、15年以上前です。確か、三島を観光したいと依頼があり、私と同じクラブの稲田精治ワイズが、せせらぎの源平川と東洋一の湧水「柿田川」や楽寿園をガイドした記憶があります。大河ドラマ源頼朝が源氏再興を祈願した三嶋大社にもご案内したかと思えます。これがご縁で、加藤ワイズとは今まで単なるメル友ではなく年賀状友が続いています。また、横浜つづきクラブとは、2006年のチャーターナイトに出席したことが始まりです。沼津クラブ出身の林茂博ワイズの名前もあり、当日は、肩を寄せ合うぐらいに大勢集まった盛況なチャーターナイトと記憶しています。コロナ禍の現在では、懐かしく羨ましい思い出です。

私が2年前、東日本区事務所長になってからは、辻剛ワイズとの関りが生まれました。監事として、決算等には目を光らせていただき、的確なご指導を受けました。一見コワモテですが、実は温情のあるご指導でした。そのほかにも、山田前理事、板村直前理事、大久保理事、佐藤次期理事や漆畑監事、田中監事(2022.6現在)、事業主任、部長等々様々な方々との繋がりが広がり、空に飛び上がったドローンのような光景と新発見の連続でした。20年間ワイズに在籍し、こんな別世界があったのかと驚き、感心しています。

ワイズ活動は、YMCA・ユース支援や地域奉仕活動を目的としています。しかし、もう一つの喜びとして、ワイズの人々との繋がりがこんなに大きな財産になるとは思いもよらないことでした。全国に輪が広がり、友情や信頼が芽生えました。これはワイズのもう一つの大きな価値ある世界です。ワイズライフは、皆様のおかげで私の人生を豊かにしています。

ワイズに感謝…!

(小林様、ご多忙の中、素敵なお玉稿を賜り有り難うございます。)

## 《レザン通信》

横浜YMCAワークサポートセンターレザン 相馬 良文

世間では、コロナウィルスの影響が薄らいだように感じますが、レザンでは、いまだ通所ができない方がおります。活動再開への取り組みとして、ビデオ会議による面談を定期的に行っています。

また、在宅活動で‘ぬり絵’を行っている方に、店舗に飾る作品を毎月持ってきていただいています。作品をお店に飾ることで、月1回の通所が実現しました。自身の働きが、人のためになることを感じ、目標をもって活動に参加していただきたいと思えます。



## ☆首里城炎上☆

元東日本区理事 小原武夫(東京世田谷)



首里城、沖縄戦により焼失し、1992年11月2日に正殿を中心とする建物群が再建され、約30年にわたる復元工事が2019年1月に完了したのだが、2019年10月31日未明に火災が発生、正殿と北殿、南殿が全焼した。

大正13年3月、首里城が取り壊され、跡地に「沖縄神社」を創建の計画が…。取り壊しの事態を前に、琉球王国の文化と歴史に魅せられた鎌倉芳太郎の奔走により、首里城は史跡名勝記年物として正式に指定され、「沖縄県社」の一部として保存されることに…。

鎌倉芳太郎が撮影した写真記録は千数百点のガラス乾板として約半世紀のあいだ鎌倉のもとに保管され、戦後の首里城再建などに重要な役割を果たす。(写真1、写真2・完成後)

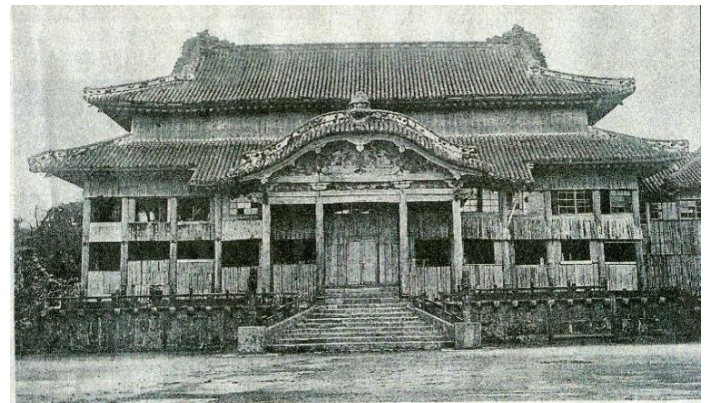
鎌倉芳太郎の活動に対し、研究補助を行った実業家の赤星鉄馬により設立された財団「啓明会」の存在がある。

全焼した首里城は2026年完成予定で再建工事は進んでいる。

さて、1962年3月3日、沖縄YMCAはスタート。1966年11月24日、横浜ワイズメンズクラブをスポンサーとして、沖縄那覇ワイズメンズクラブが誕生した。沖縄が日本に返還される6年前にさかのぼる。

首里城再建に合わせ、那覇クラブの再出発を心より願うものです…。

(参考文献：与那原 恵 著「首里城への坂道」赤堀鉄馬・消えた富豪)



(写真1)

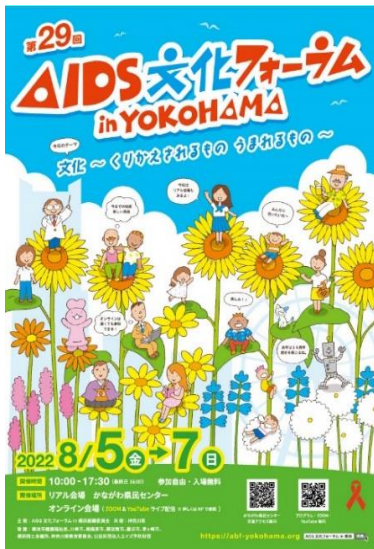


(写真2)



1949年8月、日本で初めてのエイズ国際会議が多額の経費を掛け横浜市で開かれ、この様子を目の当たりにした多くの市民団体が、「草の根」のフォーラムを立ち上げ、今年もチラシにあるような“AIDS文化フォーラムinYOKOHAMA”と決まりました。毎年、かながわ県民センターホールで開催され、今年で29回を迎えます。ではなぜ「文化」なのか、それは、このフォーラムが、単に医療や福祉の問題だけにとどまることなく、また、HIV感染者やその患者ら病とともに生きる人間として捉えるだけに留まらず、そしてすべての人がHIV/AIDSに関わりを持ちたいとする日常生活、や社会活動に関わっているという側面も大切にしたいという考え方が基本になっており、それでは…ということから「文化」の2文字を使い始めたと言われ、「文化」の呼称を入れたことで、フォーラム開催の幅は大きく広がったとみられています。

事実、今日までの実績を見てもみますと、回を重ねるごとに当然のことながらフォーラムの中味なども充実し、例えば後方支援や国際会議に参加のリソースパースンの皆様方の無償出演や無償提供などがその例になるでしょう。当然の事ながら私たちのワイズメンズクラブ国際協会湘南・沖縄部もひと口、その主催団体の一員に名を連ねております。



☆ 今月の歳時記から ☆

‘梅雨明け つゆあけ’ と ‘蟬 せみ’

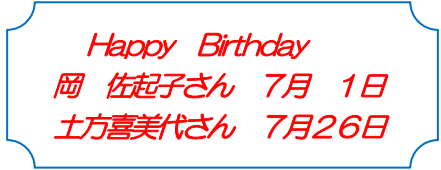
「つゆあけ」、入梅の後30日ぐらいで梅雨は明けける。平年で沖縄は6月22日頃、鹿児島は7月15日頃、大阪・東京は16日頃、青森は遅く25日頃といわれる。今年の関東甲信はこの記事を書いていた6月27日と22日ほど早かった。

山の上に梅雨明けの月出でにけり	癖三酔
梅雨明けし各々の顔をもたらしぬ	楸 邨
梅雨明けや月夜の富士を門辺より	柳 芽

次に「せみ」、七月半ばも過ぎると、いろいろの蟬がいっせいに鳴くのが聞かれる。ジイ・ジイと鳴く油蟬、ミン・ミンと鳴くミンミン蟬。シャー、シャーと鳴く熊蟬。ニイ・ニイと鳴くニイニイ蟬。あたかも時雨（しぐれ）が降るようなので、この様を蟬時雨ともいう。鳴くのはオスで、雌は鳴かないので、啞蟬という。

閑かさや岩にしみ入る蟬の声	芭 蕉
身に貯へん全山の蟬の声	三 鬼
捕らわれし蟬の鳴き声突然に	立 子

◎ 7月2日(土)・18時：第1例会・総会  
小松部長公式訪問・大下ユニーフ代表来訪  
～いずれも2ページ参照～



◎ 7月第1例会プログラムのあらまし  
司会：加藤書記

開 会：18時  
礼 拝：ワイズソング・信条  
出席者紹介  
開会あいさつ 会 長  
部長挨拶  
会長引継式：立会・小松部長  
ユニーフ大下代表報告・あいさつ  
支援金贈呈  
出席者ひとこと  
連絡事項  
ハッピーバースディ  
閉 会：19時50分  
—記念撮影—

《YMCA NEWS 横浜青年 7月号から》

テーマ： 周年記念は原点に立ち返って…

先ごろ来のコロナ禍騒ぎも一段落の兆しが見え始め、  
‘あつまる つながる よくなっていく’  
わがYMCAも日を追うごとに持てる力を少しずつながら青少年活動へと動き始めているようです。そして、来る2024年には私たちの横浜とつかワイズメンズクラブは湘南とつかYMCAとともに開設30周年を迎えます。今まで周年記念行事は、常に共同開催の形をとり、地域の方々も巻き込んだ地域密着型のセレモニーを開催してきました。今後ともこの方式を踏襲していきたい考えです。

もう一つ、湘南とつか YMCA のリーダー会の皆さんと接触する機会が、瀬戸担当主事の配慮により増えておりますが、今後ともこの関係を緩やかに発展させたい考えです。  
(横浜とつかワイズメンズクラブ会長 若木一美)

《後記》

新しいワイズ年度を迎えました…。  
本年は、ワイズ創立100周年の年に当たります。  
今から百年前の1922年、アメリカ・オハイオ州にポール・ウィリアムス・アレキサンダーにより設立された世界最初のクラブを記念したのだそうです。

(T/K)